

# 高速道路ができた!

終戦から約20年後の1964(昭和39)年10月、東京でオリンピックが開催された。日本の高度経済成長は続き、オリンピック開催は豊かさの証だった。オリンピックに向けて関連しせつ、ホテル、道路とあらゆる工事がはじまった。



現在の日本橋。(高速道路の下)

## <どこもかしこも工事中>

オリンピック観戦に訪れる多くの人々を受け入れるために、中央区内でも整備が進められた。まず、交通の便をよくするための道路整備がはじまり、区内に残されていた川は一部をのぞき埋め立てられた。また、商業しせつもつくられた。外濠川を埋め立てて銀座にできた高速道路の下には、西銀座デパート、有楽町フードセンター(現・銀座インズ)、数寄屋橋ショッピングセンター(現・銀座ファイブ)となった。こうした工事で中央区の町はどんどん変わっていった。道路整備の結果、都心の中央区は、一気に自動車交通の町となった。



築地川を埋め立て、高速道路になった。現在の銀座六丁目辺り。

## またまた埋め立て



**1 築地川**  
築地川は1960(昭和35)年から段階的に埋め立てられた。写真は、築地川南支川。築地本願寺(左)、聖路加国際病院(右奥)が見える。



**2 外濠川**  
右の大きな建物は読売新聞社。現在はブランタン銀座になっている。

大規模な川の埋め立ては、震災(→p.109)、戦災(→p.123)に続き、これで3度目となる。水運の役目を果たさない川、よごれがひどい川は真っ先に埋め立てられた。川はほとんどなくなり、「水の都、中央区」という印象は大きく変わってしまった。写真はそれぞれ埋め立てられる前のようす。

### 埋め立てられたところ



**3 京橋川**  
埋め立て直前のようす。現在の銀座一丁目5~6番地辺り。

東京オリンピック以降も川は埋め立てられていった。最後は、1978(昭和53)年に築地川の一部が埋め立てられた。それによって川にかけられていた橋はなくなってしまった(→p.42)。江戸時代以来、現在残っている川は、日本橋川、亀島川、築地川の一部など(→p.141)である。



日本橋の上に首都高速道路の建設がはじまった。

中央区では、清洲橋~茅場橋、茅場橋~鍛冶橋までの2区間で聖火リレーが行われた。区内の中学校や高校、スポーツ団体から23人の走者が選ばれた。



清洲橋で聖火を待つ走者たち。

## オリンピックにわく中央区

1940(昭和15)年に予定していた東京オリンピックが中止になったため(→p.115)、第18回オリンピックが東京開催に決まると、日本中はおおいにわいた。決定から開催までの約5年間で準備が急ピッチで進められた。



会場は渋谷区代々木の国立競技場(新宿区霞ヶ丘町)。開会式のようす。



区内も大さわぎ! 歓迎ムードとなった。

## 大工事のうらでは……

オリンピックのための大工事で道路が整備され、中央区内の町のようすはずいぶんと変わった。たくさん的高速道路ができ、便利になった面もあるが、一方で失われてしまったものもある。



日本橋がない……。



高速道路ができる前の日本橋。

日本橋の上を高速道路が通ると、橋の美しさが失われ、昔の雰囲気もなくなってしまったため、反対意見がたくさんあった。

中央区新川の日清製油本社ビル(現・日清オイリオグループ)の改築工事現場から、2回も金貨が発見された。江戸時代の小判と二朱金で、現在の10億円近い価値がある。当時この地の酒問屋、鹿島屋が埋め



1964(昭和39)年8月、佃島と明石町の間に佃大橋がかけられた。そのため1645(正保2)年から300年以上も続いていた佃の渡しはなくなった。



完成した佃大橋。

さようなら! 佃の渡し

日清製油本社ビルで見つかった金貨は、鹿島屋の子孫に返されたが、一部はお礼として日清製油に寄付された。